



2025年10期 株主・個人投資家向け説明資料

証券コード：3653（東証グロース）
2026年2月27日



INDEX

- I. 会社概要
- II. ビジネスモデル
- III. 市場環境
- IV. 競争力の源泉
- V. 株主様からのご質問への回答



I. 会社概要



VISION

Rise above what we see,
to realize what we feel

- 人間の目を拡張し、感動に満ちた世界を実現しよう -

MISSION

- 技術革新、感動と喜び、さらなる成長 -

VALUES

- チャレンジ精神、当事者意識、チームワーク -

創業
2004年

東証マザーズ上場
(現グロース市場)
2011年

グループ社員
166人

海外拠点
5カ国

特許
123

海外売上比率
61%

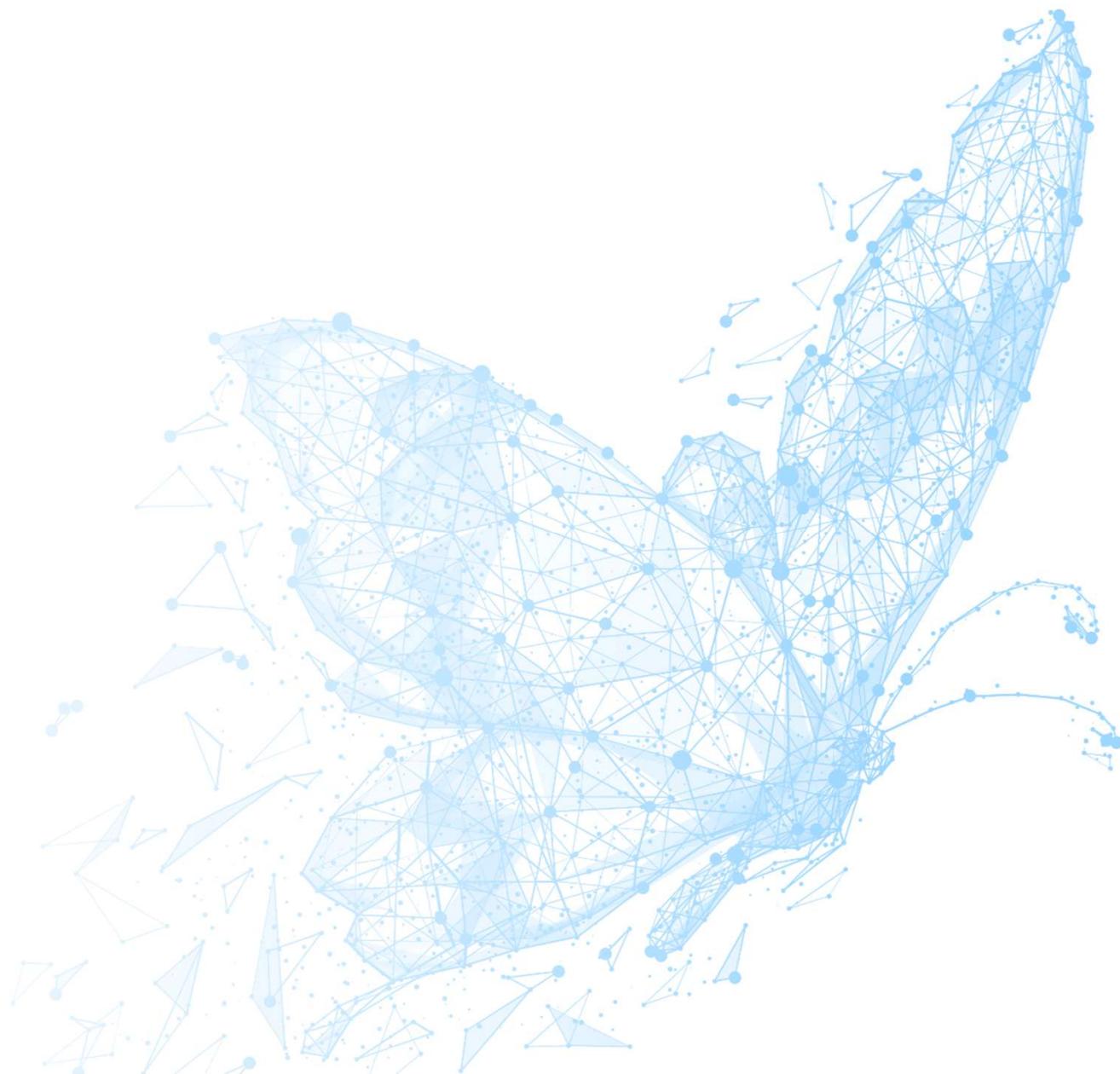
連結売上高
33億円

研究開発費率
(売上高比)
16%

※2025年10月期



Ⅱ. ビジネスモデル



■ 事業全体像 Investment Highlight I



- ・モルフォは、研究開発型企业から利益成長企業へ進化します
- ・スマートフォンに続く業界特化型ストック収益モデルを構築します
- ・持続的で予測可能な成長を目指します

成長戦略サマリー

1. スマホから**車載／ウェアラブル／DX（防衛・建設他）**の3領域に集中
2. SDK製品ライセンス中心の**積み上げ型モデル**を構築
3. Edge AI × 画像処理特化という技術的**参入障壁**
4. スマホ向け既存技術を**他産業へ転用・同一技術の横展開**
5. 成長ドライバーは、
 - ① **業界Tier1（完成車メーカー、スマートデバイスメーカー等）採用**
 - ② **製品ライセンス（製品積み上げモデルの構築）による再現性のある利益モデル**
 - ③ **提携戦略（主に業界Tier1）の進捗**

■ 事業全体像 Investment Highlight II



・ 主要注力領域の戦略概況

～ポートフォリオ集中とライセンス収入への展開～

		現状	中長期
スマートデバイス	スマートフォン	ライセンス：画像処理全般（動画手振れ補正/パノラマ/画像鮮明化）	
	ウェアラブル	受託開発+ライセンス：動画手振れ補正/歪み補正/エッジ処理最適化プロダクト	
車載	車両制御領域	ライセンス：受託開発 = 小：大	AD/ADAS向け処理最適化プロダクト提供
	非車両制御領域		センサーキャリブレーションプロダクト提供
	AI技術開発支援ツール領域		E2E(End-to-End)モデル開発支援プロダクト提供
DX (防衛・建設他)	特定用途機器	受託開発+ライセンス 視認性向上 人手不足への省人化対応	1つのカメラシステム ⇒ 複数のカメラシステム 1つの機体 ⇒ 複数の機体連携
AI基盤	AI推論エンジン (SoftNeuro)	主にスマホ向けSoCをサポート (Qualcomm/MediaTek)	車載向け、他事業領域（かつ当社の注力領域）で 使われるSoCをサポートし、ライセンス拡大

■ 事業全体像 ビジネスフロー



ロイヤリティ収入 :

- 各メーカーへ当社グループのソフトウェア製品を提供
- 各メーカー製品の出荷台数/期間に応じたライセンス料收受

開発収入 :

- 新製品・サービス開発時に、各メーカーからモルフォが開発を請負
- 一定の条件を満たせば当社グループ単独でライセンス展開

その他 :

- 各メーカーへ当社製品の実装支援を実施する開発サポート収入
- 各メーカーへ製品利用許諾後に技術的サポートを実施する保守サポート収入

■ 中期経営計画（Vision2027）概要



受託開発 → プロダクト化 → ライセンス でストック比率50%へ

高粗利モデルへ転換し、利益再現性を確保

「**画像処理 x 軽量・高速・低消費電力 x 高精度AI**」という技術優位性を、
スマホ以外の“高付加価値・技術要求は高いが競争が少ない市場”へ振り向ける

① スマホ依存（50%）の低減

- ・ スマホ向けビジネスは維持するが積極的な投資は行わない
- ・ 競合他社 / メーカー内製との総力戦はしない

② ウェアラブル（スマートグラス・アクションカメラ等） x 軽量AIを中期成長ドライバーに

- ・ スマホ向けに培った資産が最も活きる市場でポジションを確立

③ 車載（車両制御技術、非車両制御技術、AI技術開発支援ツール）を第二の柱に

- ・ 受託開発を中心としたステージから出荷台数ベースのライセンスビジネスに移行
- ・ AI技術開発支援ツール（ライセンス）で安定的なストックビジネスを構築

④ DX（防衛・建設他）領域で国産技術ニーズを獲得

- ・ 昨今の国際情勢変化に伴う「国内サプライチェーン重視」と海外輸出規制緩和が追い風
- ・ 純国産画像処理・AI技術に関する期待の高まりを背景に重点領域としてリソースを集中

■ 中期経営計画 進捗

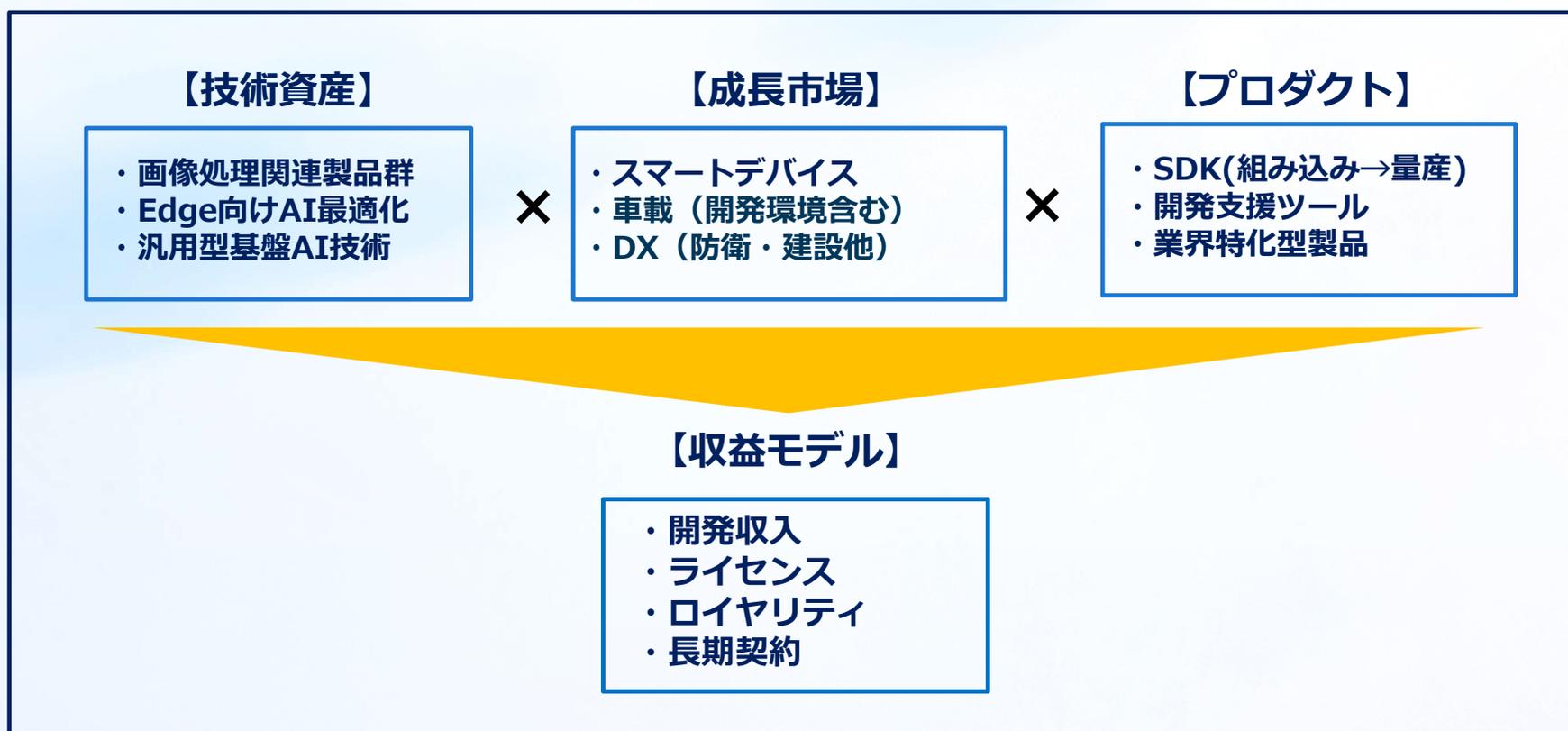


前中計最終年度対比で2025.10期は、連結売上+58百万円増加、連結営業利益▲211百万円減少となり、2024年12月13日公表の当初連結業績予想を下回り着地。

事業戦略		進捗状況	
SMART DEVICES スマートデバイス	スマートフォン以外の領域の開拓	◎	・スマートフォンに次ぐ領域としてスマートグラス向けの市場の新規開拓
	中国以外の市場開拓	×	・中国以外のアジア圏における市場の開拓が当初想定より遅延
AUTOMOTIVE 車載モビリティ	大手OEMやTier1との取引を拡大	△	・取引先の拡大は一定程度の成果。金額ベースでの拡大は途上
	ライセンスビジネスの拡大	△	・POC及び受託開発は進捗したものの量販車向けライセンス提供は遅延
DX デジタル・トランスフォーメーション	国内建設系のDX拡大	△	・低コストで3D空間撮像技術の開発により建設系向けのソリューションを確立
	海外における製造業向けDX拡大	×	・案件は顕在化したがる、拡大ステージは次期以降
	新規事業の拡大	◎	・防衛系案件における収益拡大の土台構築

■ 中期経営計画 成長戦略概念図

- ・ 技術資産を成長市場に振り向けプロダクト開発を加速
- ・ 長期ライセンス収入の獲得を目指す



■ 中期経営計画 事業領域分析とモルフォの適合性



・市場成長率と技術適合度

～軽量×高精度×低消費電力を独自AI基盤技術で実現～

市場	成長率(CAGR)	軽量AI	高精度	低消費電力	参入障壁
1. スマートデバイス :	11% ~ 60%	◎	○	◎	中
2. 車載 :	18% ~ 25%	◎	◎	○	高
3. DX (防衛・建設他) :	2.6% ~ 7.3%	○	◎	○	非常に高い

(成長率出展 : IDC、MM総研、Fortune Business Insight、The Business Research Company、Omdia、Mordor Intelligence、Report Ocean、Global Market Insights)

■ 事業領域 スマートデバイスの成長戦略

スマートフォン向け製品を横展開・さらに強化し、スマホに続くライセンス収入を確実にする

市場動向

【市場環境】

- AI搭載による実用性、デザイン性の向上で普及期へ
- 中国OEMを中心としたスマホ同様のエコシステム

【課題認識】

- **超広角レンズ（歪み大）対応**が必須
- **超軽量な画像**・AI処理が求められる

当社の競争力

- スマホ向けに軽量最適化した画像処理・AI領域での **基礎製品群と技術力を横展開可能**
- スマホ事業において最先端の技術を開発し、提供し続けることで構築した **中国OEMとの強固な関係**
- SoC企業との長年のパートナーシップ

NEXT戦略

【プロダクト戦略】

- **既存製品群の横展開**
スマホ向けIP群をパッケージで提案。
また、多様なSoCをサポートする **AI推論処理最適化製品**で開発コストを低減
- **ウェアラブル製品へのカスタマイズ**
動画手ぶれ補正、歪み補正など、モルフォが **技術優位性をもつIPを中心に**カスタマイズし提供
- **未来創造室の成果を提案へ**
ウェアラブル向けに開発中の **VPSやVLM活用**など最新の研究開発成果を提案していく

プロダクトのカスタマイズを中心とした受託開発から製品ライセンスによるロイヤリティ収入拡大へ

市場動向

【市場環境】

- ADAS/SDVにおける**カメラの役割が拡大**
- シミュレータ環境を活用した車載AI開発が活発化
- 高性能AI且つ**低開発コスト**へのニーズ拡大

【課題認識】

- 高性能と高品質を両立する**実装難度の高さ**
- **車載用途に特化**したAIモデル開発が必要
- E2Eモデルの学習・性能評価に**膨大なデータが必要**

当社の競争力

- **画像処理・AIに特化**し、最先端の技術を開発、市場へ提供し続けることで得られた**基礎製品群と技術力**
- 車載企業との長年の**共同研究開発**で獲得した**ノウハウ**
- 資本提携を含むTier 1企業との**パートナーシップ**

NEXT戦略

【プロダクト戦略】

- **車両制御分野**
多様なSoCをサポートする**AI推論処理最適化製品**で開発コスト低減と品質保証に貢献
- **非車両制御分野**
搭載数が増加するカメラ向け**自動キャリブレーション製品**で開発コスト低減とADAS性能確保に貢献
- **AI技術開発支援ツール分野**
主流のE2Eモデル開発に必要な**学習データ・性能評価シナリオの生成を支援するツール**で開発コスト低減、性能向上／品質保証に貢献

受託開発を通して業界でのポジションを確立、中期的には複数製品ライセンスを目論む

市場動向

【市場環境】

- 地政学リスクに伴う**防衛予算の大幅増額**
- 防衛力の抜本的強化（防衛力整備計画）
- 国内防衛基盤の強化に伴う**受注機会の拡大**

【課題認識】

- 労働力不足に伴う省人化・無人化の急務
- センサー増設による情報過多と処理遅延
- 低コストな無人機による飽和攻撃への対応

当社の競争力

- 悪条件下でも物体識別が可能な**独自の画像処理技術**
- **リソース制限下での**高速演算アルゴリズム(実装)
- 複数センサー情報の**統合(フュージョン)技術**

NEXT戦略

【注力分野】

- **既存装備の性能向上**
画像処理AIソフトウェア提供による**視覚能力の高度化**・自動化（視認性改善）
- **人的リソースの最適化と隊員の安全性向上**
AI解析による自律的かつ広範囲な警戒監視を行う遠隔監視システムの開発支援・展開
- **OODAループの迅速化・脅威度判定の自動化**
エッジコンピューティングによる**計算の高速・高効率化**、加えて**VLMの活用**
- 次世代無人機開発プロジェクトへの参画とSoCレベルでの採用提案



III. 市場環境

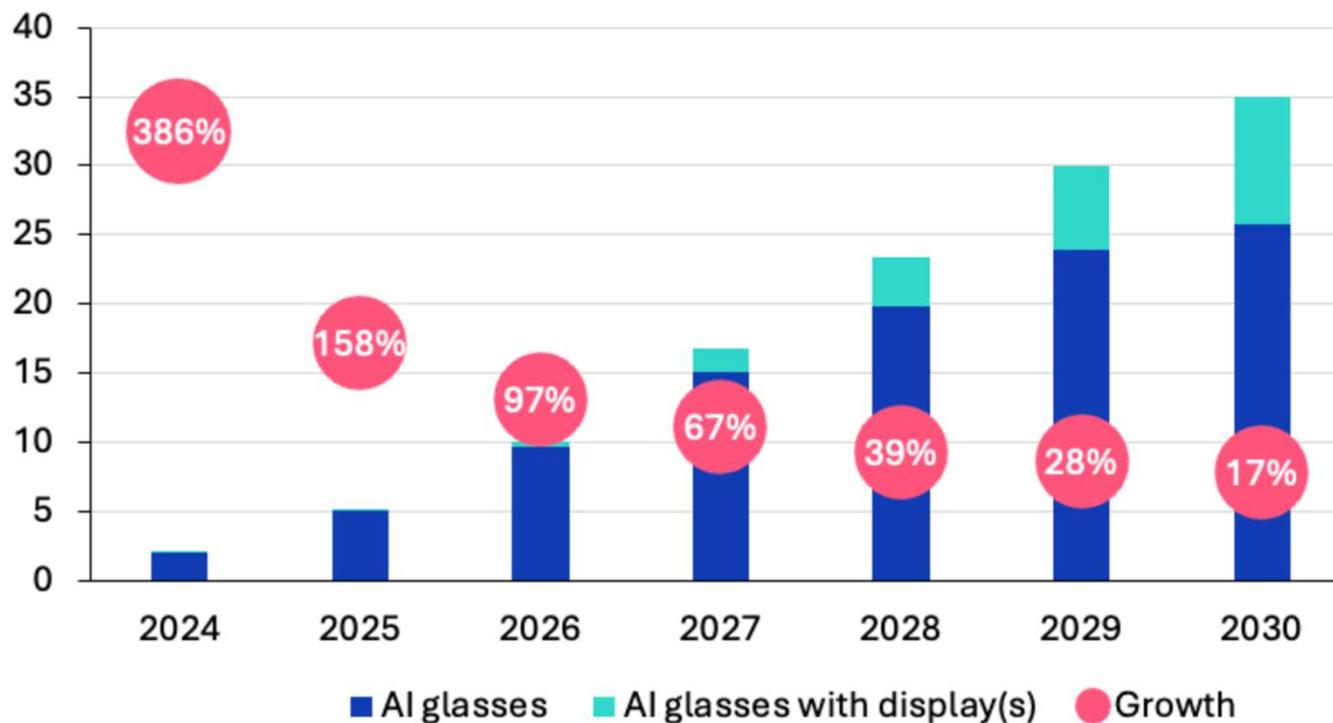


■ 市場環境 スマートデバイス AIスマートグラス市場規模予測

- 2030年には年間出荷台数が3500万台に達する見込み -

Worldwide AI glasses shipment forecast, 2024 to 2030

Units (millions)

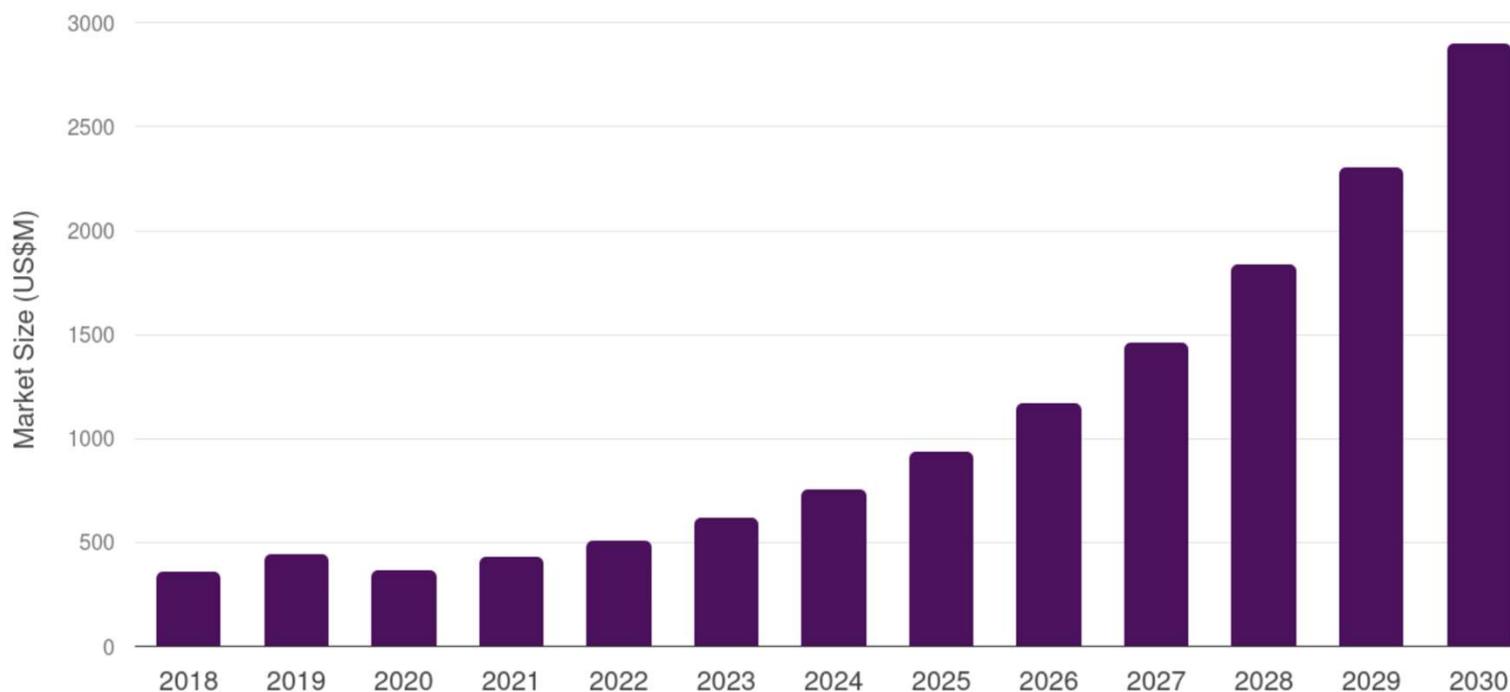


出展 : Omdia AIスマートグラス市場予測

■ 市場環境 車載 車載向けAI市場規模（画像処理分野）

画像処理分野における自動車向けAI市場規模は、2024年に7億5,490万米ドルと評価されており、2024年から2030年にかけて年平均成長率（CAGR）25.4%で成長すると見込まれる

Global computer vision automotive artificial intelligence market, 2018-2030



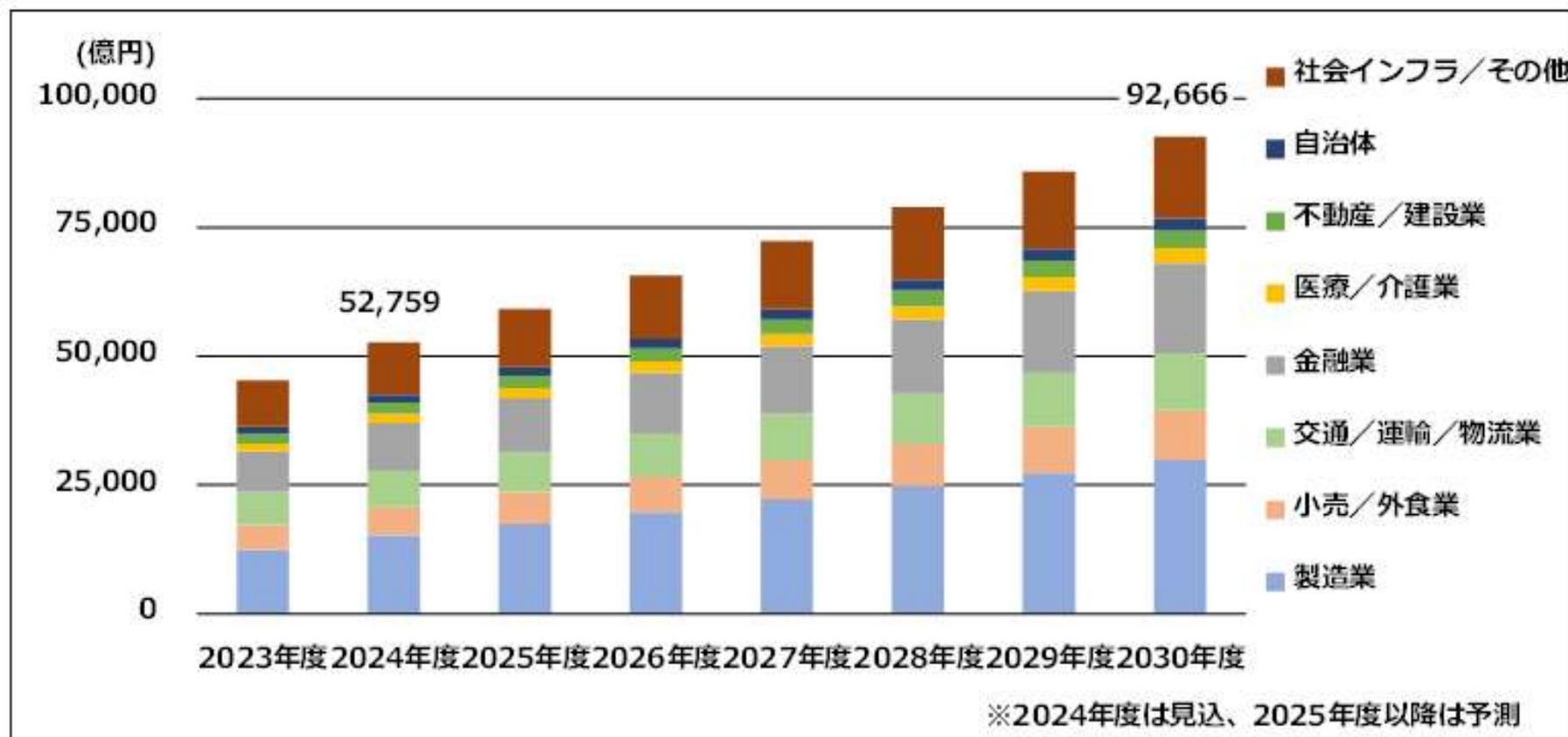
<https://www.grandviewresearch.com/horizon/statistics/automotive-artificial-intelligence-market/technology/computer-vision/global>



出展：HORIZON 車載向けAI市場規模

■市場環境 DX 国内市場の推移と予測

- 2030年にはDX関連投資額は9兆2,666億円に達する見込み -



出展：富士キメラ総研「2025 デジタルトランスフォーメーション市場の将来展望 市場編」



IV. 競争力の源泉



■ 技術的優位性 独自AI基盤 (SoftNeuro®)



スマホ・車載SoCに事前最適化されたAI推論処理を提供

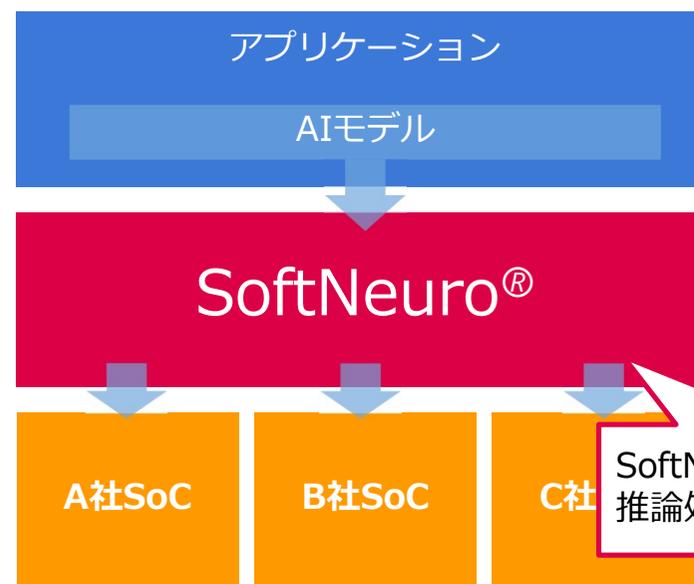
(複数のSoCサポートが必要なOEM/Tier1企業の開発負荷を大幅に低減)

従来



通常はSoC毎に推論処理の実装が必要
TensorRT、SNPE、R-CAR・・・

SoftNeuro®採用



SoftNeuroが最適化された
推論処理をまとめて提供

■ 技術的優位性 独自AI基盤 (SoftNeuro®)



各社AIプロセッサでの豊富な対応実績

対応プラットフォーム例

- Qualcomm QNN
- MediaTek NeuroPilot
- NVIDIA TensorRT
- Intel OpenVINO
- ルネサスエレクトロニクス R-Car V4H
- Hailo Hailo-8

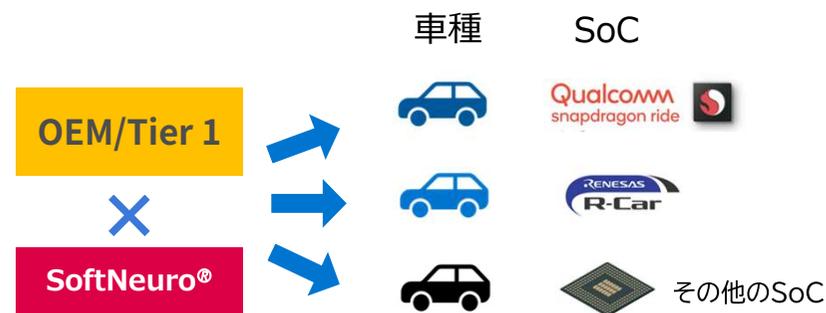
自動車・スマートデバイス（スマホ・PCなど）分野における量産ソフトウェアへの採用実績多数

顧客の開発効率化にわかりやすい形で貢献

開発期間短縮=市場投入への期間短縮へ



車種毎にSoCが異なる場合も短期最適化が可能に



■ 新領域の事業創造 I

- プロダクトアウトの実現へ -

<軽量・低コストで実現する3D空間撮像の開発>

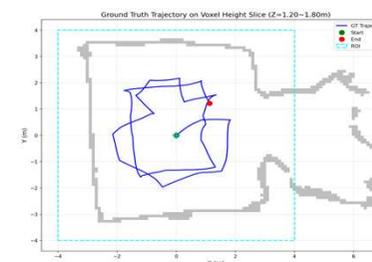
- LiDAR を搭載しない軽量・安価なドローンによる効率的な自律式空間撮像システム
- Visual SLAM 技術と自動経路探索技術によって画像を自律的に収集
- 収集した画像を Morpho Photogrammetry Toolkit に入力することで空間の高精細 3D モデルを復元
- 建設 DX、建設現場のデジタルツイン化のための要素技術



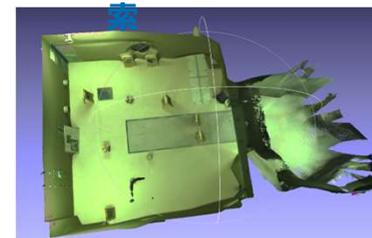
空間撮像ユニットを搭載したドローン初号機



自律飛行実験の様子



自動経路探索



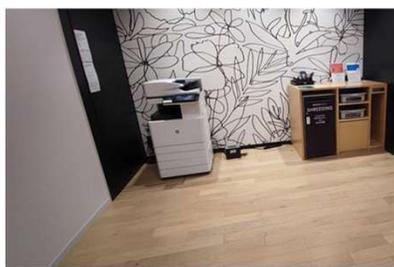
高精細3Dモデル

■ 新領域の事業創造 画像を用いた計測技術の応用範囲

- 建設業界や工場を中心にDigital Twinを活用した業務効率化のニーズが高まっており「Photogrammetry」はこの中心となる技術の一つ
- 国が推進する i-Construction 2.0 (令和6年4月)により建設業は従来より3割程度の工数削減効果。(i-Construction推進コンソーシアム (第9回企画委員会) 資料2 より 【令和5年12月8日】)



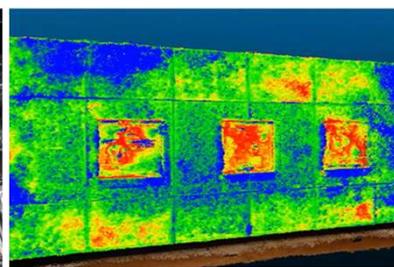
地下マップ作成



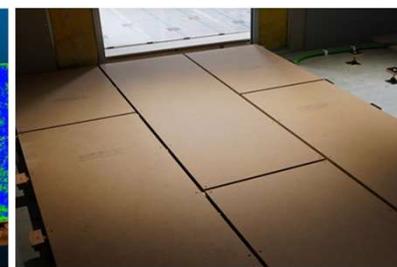
室内再構成



配管推定



壁面推定



ミリ精度再構成

■ 新領域の事業創造 II

ウェアラブル領域の中長期成長戦略



フェーズ1 (～2026) 記録と共有

【SCENE】 : 運動中や子育て中に見たままをハンズフリーで撮影し SNS で共有



【課題】 :

- 動きにともなう激しいブレ
- 画面がないことによる画質調整の難しさ
- 気軽に撮影した長時間動画の共有の難しさ

フェーズ2 (2026～) 視覚の理解と情報の提示

視野にある物体の解説や、外国語の翻訳を表示する



- 通信遅延
- 多様なエッジ計算環境でのAI推論
- 画質不良によるAI誤認識

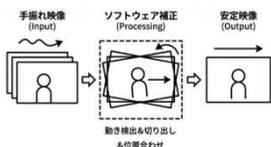
フェーズ3 (2028～) 視覚コンテキストの理解

場所や相手を認識し、必要な情報を適宜能動的に自動提示



- 常時稼働による電力消費
- VLM認識の遅さ
- 屋内での位置特定の難しさ

MovieSolid®
ソフトウェアによる手振れ補正



Morpho Hyperlapse™
ブレを押さえた、高品位のタイムラプス動画作成

Morpho HDR™
Morpho WDR™
ダイナミックレンジ補正技術

SoftNeuro®
様々な環境上で高速なAI推論を実行可能に

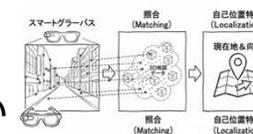


Morpho Deep Detector™ / Morpho Deep Segmentation™
エッジ動作可能な軽量認識ソリューション

Morpho Vision Language Model (VLM) Accelerator (仮)
VLM軽量化 / 特定ドメイン向け軽量VLM開発技術

Morpho Visual Positioning System (VPS)

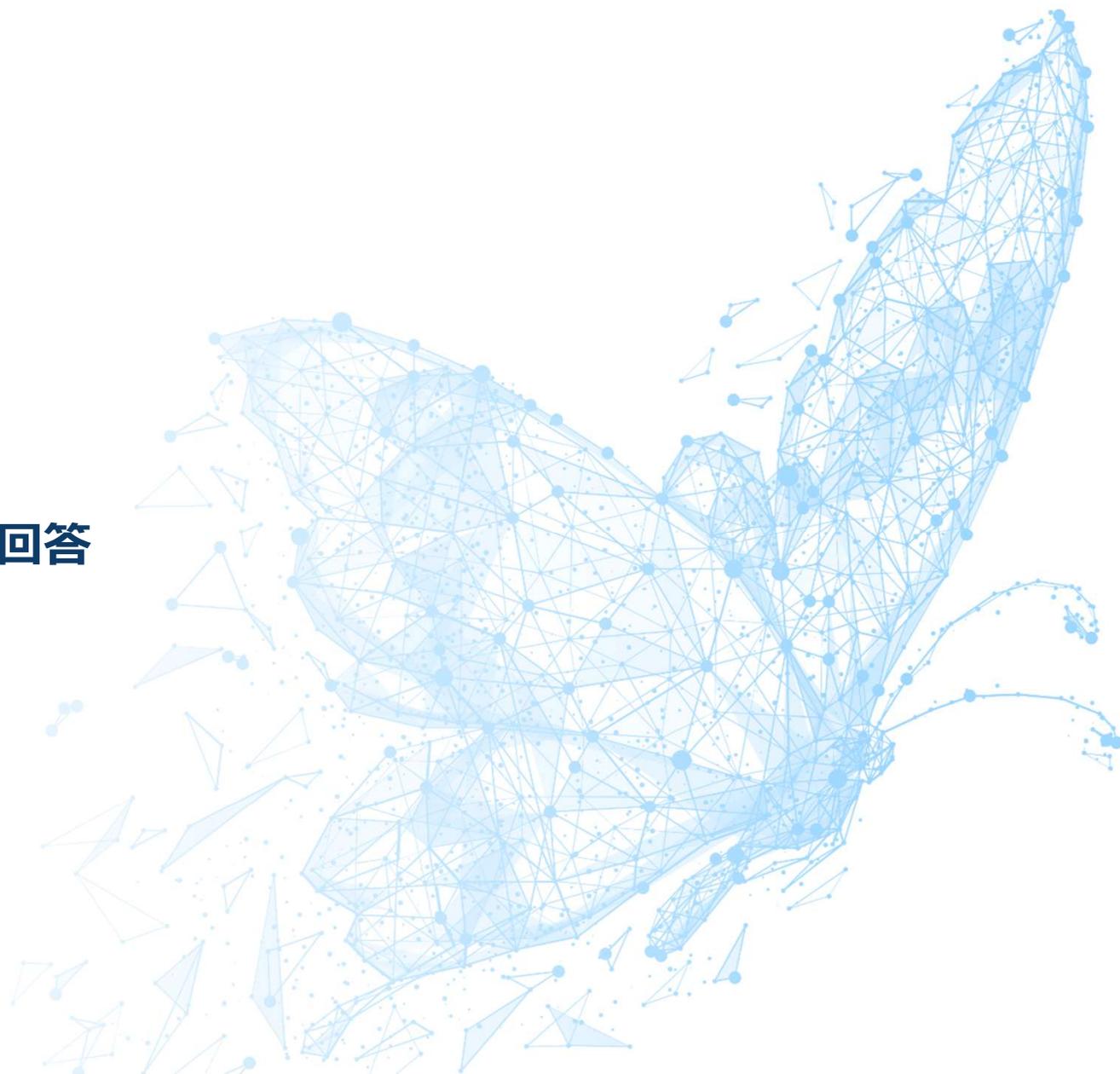
画像によるGPS使用できない場面での自己位置推定



モルフォの
【ソリューション】
【プロダクト】



V. 株主様からのご質問への回答





ご質問への回答①

- 会社の成長シナリオについての考えは？



ご質問への回答②

- 資本業務提携の進捗は？

ご質問への回答③

- 資本政策について（上場基準、株価、減資）

